

---

# 神様

ダッフィー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

神様

### 【Nコード】

N7003F

### 【作者名】

ダッフィー

### 【あらすじ】

ある村に神様と崇められている石像があつた。ある日、その石像が言葉を発した。村人達の運命はいかに…？

(前書き)

短いお話です。

ある小さな村に数人の男女が住んでいた。  
もちろん老人や子供もいる。

その村では、とある石像を『神様』とし、  
人々はその前で祈りを捧げたりしていたのだった。

ある日…。

その石像が言葉を発した。

「村人達よ、ワタシの前に集まりなさい…」

いつからこの石像を神として崇めていたのかは  
誰一人として知らなかったが、  
それぞれが知っている限り、神様が言葉を発する事は初めての事だ  
だったので

村中は大騒ぎになった。

「神さまがしゃべったらしいぞ！」

「何かお告げがあるのかもしれないわ」

村人達は全員神様の前に集合した。

すると神はこう言った。

「村人達よ、よく聞け。今からお前たちを全員殺す…」

それを聞いた村人たちは啞然とした。

神様ともあるうお方が、こんな事を言うわけがない。  
信じられない事だった。

そんな時、一人の村人が神様に言った。

「助けてください。私達は神様を大切にしてきたつもりです」

「ふむ。助けてやってもいいが…その変わり条件がある…」

「何でも聞きます。ここの村人達は神様を信仰している者ばかりです」

「それじゃ…まず村中をきれいにしなさい…」

村人達は必死に村のすみからすみまできれいにした。

それが終わって神のもとへいくと、今度はまた違う条件を神に出された。

「今度は3日間の断食だ…」

とにかく神様は村人達がひとつの事をやり遂げると  
次の条件を出してきたのだった。

厳しい条件はいくつも続いた。

しかし村人達はその全てをやり続けた。

これはいつまで続くのだろうか？

神様は何のためにこんな事を我々にさせるのだろうか？

村人達がそんな疑問を持ち続けた頃、神は言った。

「もうよろしい。よくやった。しかしやはりお前たちを全員殺す…」

「ふざけるな！お前なんて神様でも何でもない！」

「そうだわ。私達は必死に神様の言う事を聞いてきたのに！」

「神様がこんな残酷なことをするはずがない！」

「こんな奴、神様じゃない！」

村人の半数が神様に文句を言った。

もう半分の村人達は神様の言った事を黙って聞いているだけだった。

「はい。今ワタシに文句を言った者は殺す…」

神は穏やかにそう言うのと、次々と村人を消していった。

「残った者に言う。ワタシに頼ったり、願い事を言ったり、幸せにしてもらおうなど、つまり自分の私欲のためにワタシは存在しているのではない。もちろんワタシに見返りを求めるものでもない。

消えていった者達は皆、殺されたくないという一心で全て行動していたということだ。それだけにすぎない。都合のよいときだけ神と崇められる。

そしてワタシが神かどうかなんて誰に分かるというのだ」

そういうと石像は粉々に砕けた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7003f/>

---

神様

2011年10月4日10時44分発行